参考資料１

50 年後の社会を取り巻く状況

世界

◇人口問題

世界全体　：　61億人（2000）→91億人（2050年）・・・1.5倍
アジア　　：　37億人（2000）→52億人（2050年）・・・1.4倍

出典：国連「World Population Prospects,The 2002 Revision」

◇経済

○グローバル化

世界的なFTAの動き
経済圏の３極化　：　東アジア、欧州（EU）、北米（NAFTA）
が世界経済の8割（2000年ベース）を占める

○中国をはじめとする東アジア諸国の更なる経済発展

中国の経済成長（GDP）：
1.1兆ドル（2000年）→14.2兆ドル（2030年）

出典：二層の広域圏の形成に資する総合的な交通体系に関する検討委員会「新しい国のかたち『二層の広域圏』を支える総合的な交通体系」（H17年5月）

◇地球環境問題

○地球温暖

平均気温：1.4～5.8℃上昇（1990→2100年）
平均海面水位：9～88cm上昇（1990→2100年）
二酸化炭素排出量の予測（2000年→2100年）：
先進国は横ばい、開発途上国では約5倍に増加

出典：環境省「環境白書」他

○エネルギー事情

世界のエネルギー資源の可採年数：
石油：41年（2002年末時点）、石炭：204年（2002年末時点）
天然ガス：61年、ウラン：61年（2001年1月時点）
世界のエネルギー需要　：　66%増加（2000→2030年）
アジアのエネルギー需要　：　倍増（ 2000→2030年）

出典：資源エネルギー庁ホームページ他

○食糧事情

人口増加に伴う世界的な食糧危機の深刻化
異常気象等による深刻な食糧不足の発生

出典：国連食糧農業機関

国内

◇人口問題

・総人口の減少
2006年（1.28億人）をピークに減少→1.08億人（2050年）
・人口構成の変化『少子高齢化』　（2006年→2050年）
年少人口（比率）：1,800万人(14%)→1,100万人(11%)・・・39%減
生産年齢人口（比率）：8,400万人(66%)→ 5,400万人(54%)・・・36%減
老年人口（比率）：2,600万人(21%)→3,600万人(36%)・・・38%増
人口分布の変化『二極化』
人口規模の大きい都市圏　→　増加
人口規模の小さい地域　→　減少（低密度・無居住地域の拡大）

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（H14年1月）」

◇経済

○低成長基調

実質GDP成長率：0.3%(2010年代)→0.2%(2040年代)

出典：内閣府「経済財政白書」（H15年度）

○労働力の減少

○東アジアとの関係が強まる

○海外との水平分業の進展

出典：二層の広域圏の形成に資する総合的な交通体系に関する検討委員会「新しい国のかたち『二層の広域圏』を支える総合的な交通体系」（H17年5月）

◇環境問題

○地球温暖化

6～8月の日平均気温：3.0～4.2℃上昇、
真夏日の増加：50～70日、
降水量の増加：17～19%上昇（→2100年）
温室効果ガスの削減目標（京都議定書）：
1990年（12.4億トン)比6%減
総排出量：13.4億トン（2003年）
→11.6億トン(2012年)・・・実質–14.3%

出典：国立環境研究所「地球温暖化が日本に与える影響について」（H17年1月）、環境省「環境白書」

○エネルギー事情

高い海外依存率
石油依存度の低下：石油：71.9%(1970年)→49.4%(2001年)

出典：資源エネルギー庁ホームページ他

○食糧事情

耕作放棄地の増加
食糧自給率の低下：
73%（供給熱量ベース,1965年）→40%（同、2003年）

出典：農林水産省「食料・農業・農村白書」

参考資料２

国民各層の意見集約結果

（１）　地域づくりに関するアンケート調査結果 参考-5

（２）　訪日外国人アンケート調査結果 参考-13

（３）　万博参加国ヒアリング調査 参考-19

（４）　有識者ヒアリング調査結果 参考-25

（５）　主要企業ヒアリング調査結果 参考-29

参考資料 2-(1)

地域づくりに関するアンケート調査

（愛知万博会場来場者・交通拠点利用者）

調　査　結　果

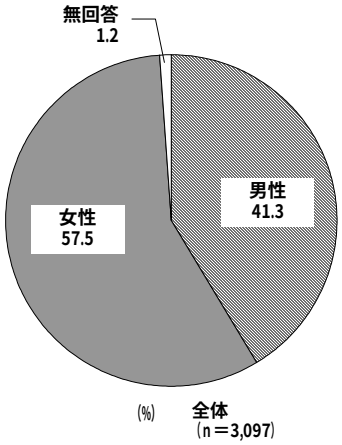
Ⅰ　調 査 の 概 要

	愛知万博会場来場者アンケート	交通拠点利用者アンケート
（1）調査対象	愛知万博を訪れている日本在住の日本人および外国人	①東名高速道路上郷ＳＡ利用者 ②中部国際空港利用者 ③「みちフェスティバル（８／６開催）」来場者
（2）調査方法	①　会場ゲートにおける出口調査 ②　会場内のパンフ等配布用ラックへの配置 ①と②併用によるアンケート調査	調査員による配布、後日郵送で回収
（3）調査期間	①出口調査　： 平成 17 年 6 月 30 日(木)～ 7 月 2 日(土) （３日間） ②ラック配置： 平成 17 年 7 月 3 日(日)～ 7 月 9 日(土) （７日間）	①上郷ＳＡ：平成１７年７月９日（土）、１３日（水）（２日間） ②中部国際空港：平成１７年７月 17 日（日）及び 19 日（火）（２日間） ③「みちフェスティバル」:平成 17 年 8 月 6 日(土)
（4）配布・回収数	①配布件数　１５,０００件 ②配布件数　　５,０００件 回収数　３,０９７件（回収率１５．５％）	①上郷ＳＡ（配布）5,000 件、（回収）557 件、回収率 11.1% ②中部国際空港（配布）3,000 件、（回収）522 件、回収率 17.4% ③「みちフェスティバル」（配布）2,000 件（回収）434 件、回収率 21.7% 合計（配布件数）10,000 件（回収数）1,513 件、回収率 15.1%
（5）調査主体	国土交通省中部地方整備局	
（6）調査委託機関	株 式 会 社 Ｕ Ｆ Ｊ 総 合 研 究 所	

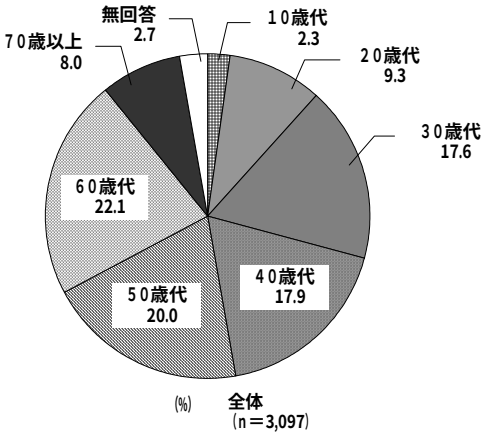
Ⅱ　調　査　結　果（愛知万博会場来場者編）

アンケート対象の属性

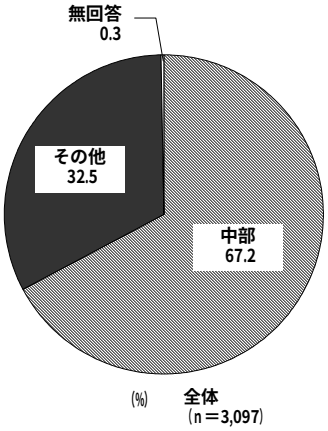
性別



年齢



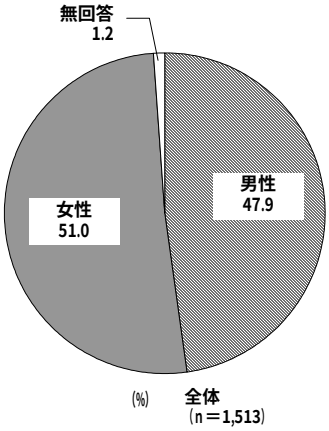
お住まい



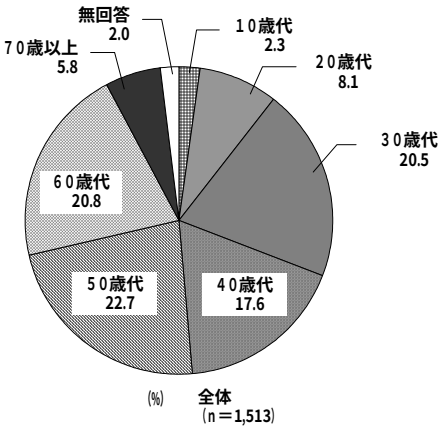
（交通拠点利用者編）

アンケート対象の属性

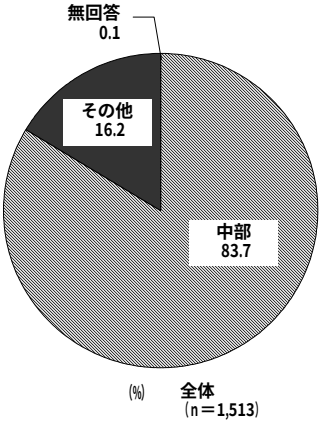
性別



年齢



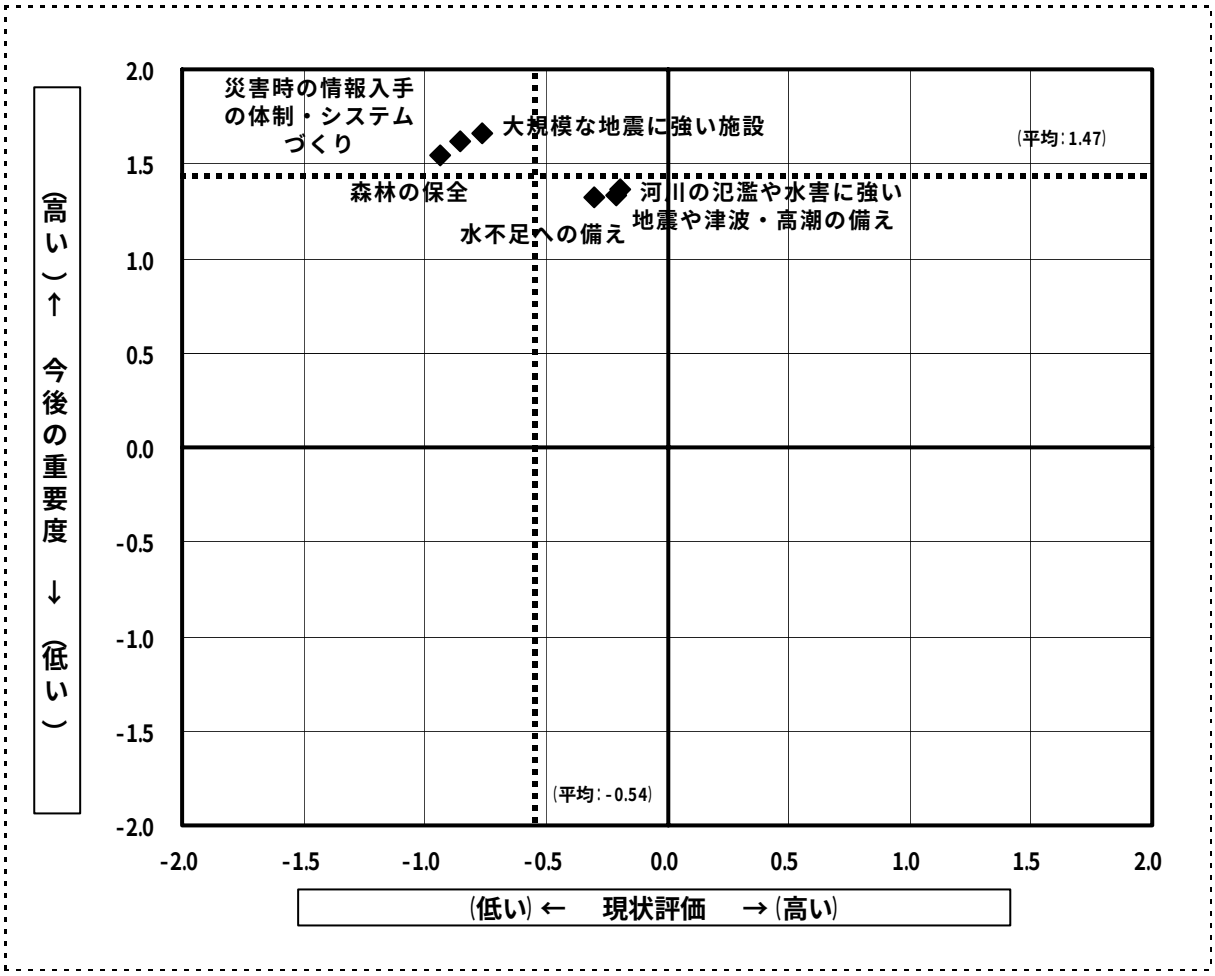
お住まい



安全・安心な国土づくりについて（中部地方）

○　「大規模な地震に強い施設」「災害時の情報体制・システムづくり」「森林の保全」については、「現状評価」が低く、「今後の重要度」が高くなっている。
○　「水不足への備え」について、「現状評価」がやや低く、「今後の重要度」が高くなっている。
○　また、「河川の氾濫や水害に強い」「地震や津波・高潮の備え」についても「現状評価」がやや低く、「今後の重要度」が高い。

安全・安心な国土づくり
（中部地方）



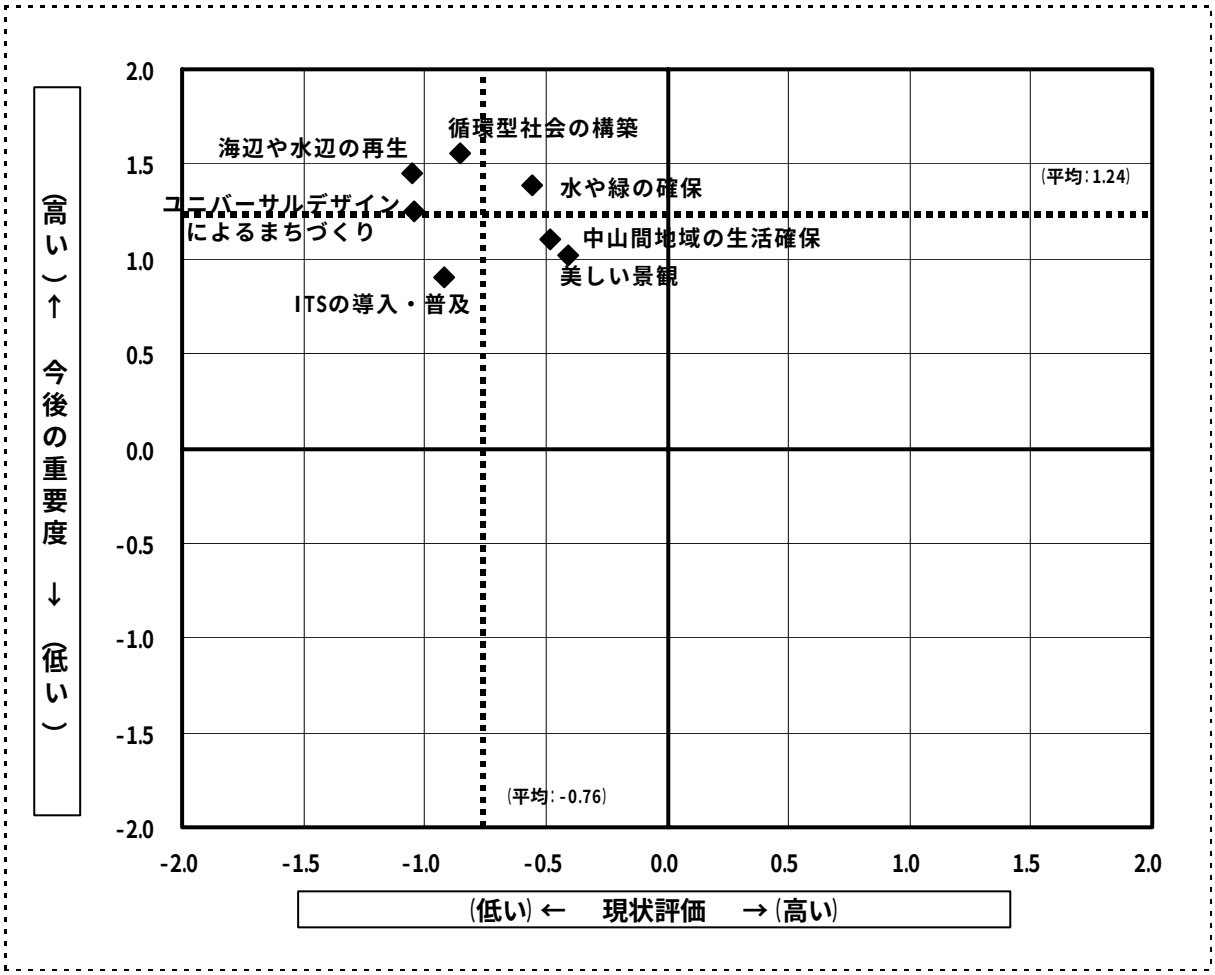
注=「現状評価」と「今後の重要度」の散布図は、アンケート調査の回答を次のように点数換算し、平均値を算出して作成した。
【現状評価】「十分である」=2点、「やや十分」=1点、「やや不十分」=−1点、「不十分である」=−2点
【今後の重要度】「重要」=2点、「やや重要」=1点、「あまり重要でない」=−1点、「重要でない」=−2点
以下同様

健康で美しい、人と環境にやさしい地域について　（中部地方）

○　「循環型社会の構築」「海辺や水辺の再生」「ユニバーサルデザインによるまちづくり」「ＩＴＳの導入・普及」については、「現状評価」が低く、「今後の重要度」が高くなっている。

○　「水や緑の確保」「中山間地域の生活確保」「美しい景観」ついては、「現状評価」がやや低く、「今後の重要度」が高くなっている。

健康で美しい、人と環境にやさしい地域
（中部地方）



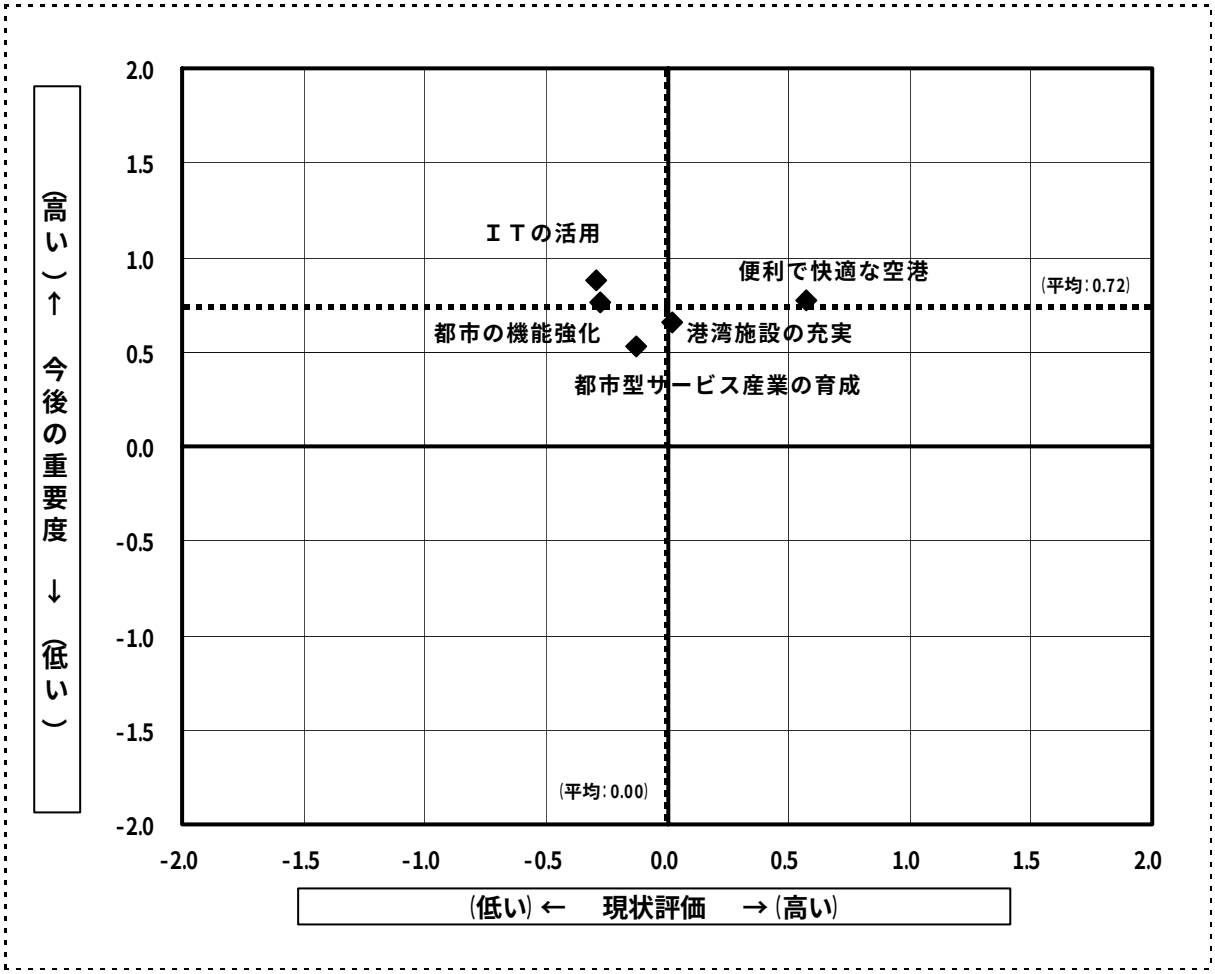
産業が国際的に高い競争力を有する地域について　（中部地方）

○　「ＩＴの活用」「都市の機能強化」については、「現状評価」がやや低く、「今後の重要度」が高くなっている。

○　「便利で快適な空港」については「現状評価」が高い中、「今後の重要度」も高い。

○　その他の項目については「今後の重要度」が高くなっている。

産業が国際的に高い競争力を有する地域
（中部地方）



世界的な交流の中で新たな活気が育まれる地域について　（中部地方）

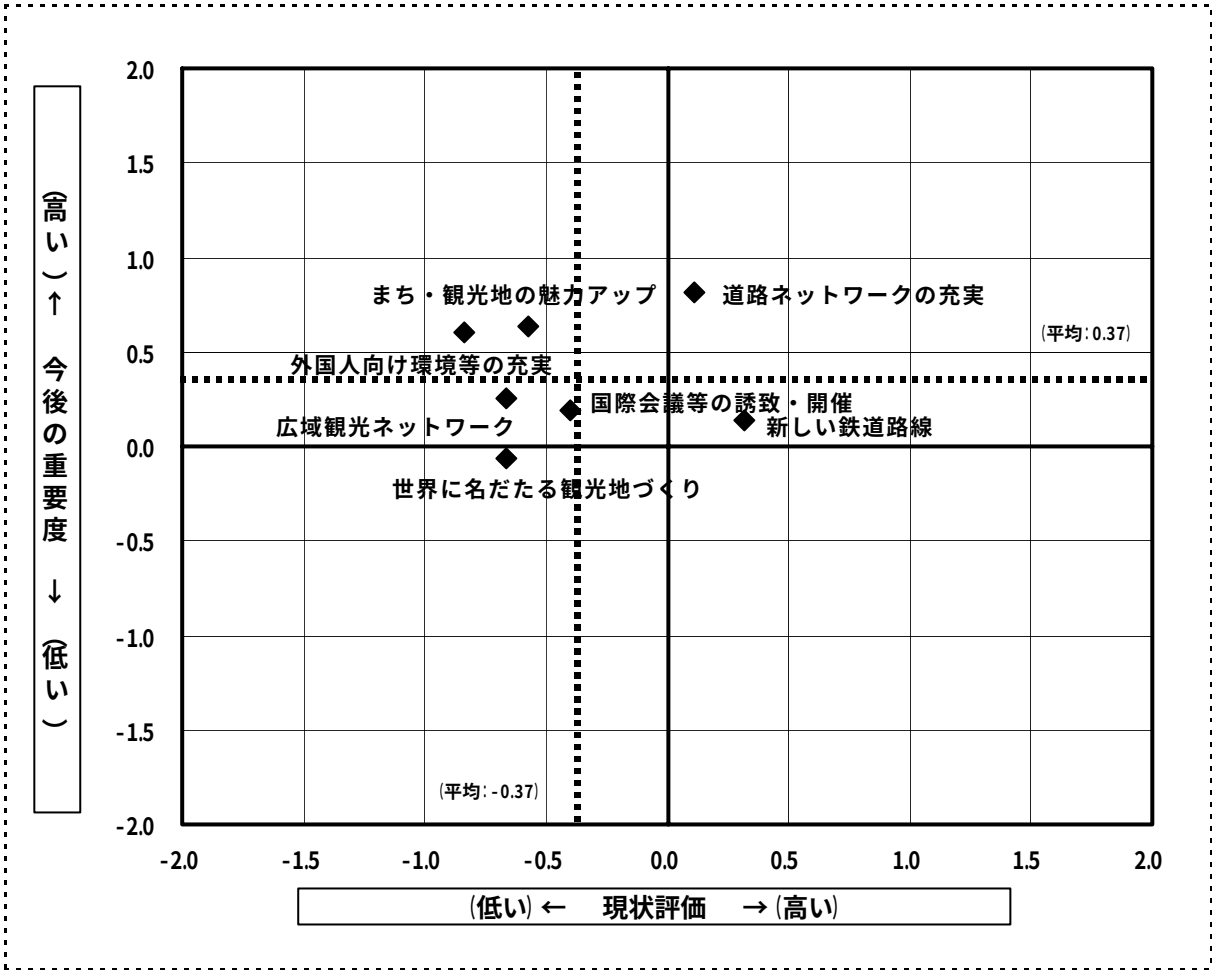
○　「まち・観光地の魅力アップ」「外国人向け環境等の充実」については、「現状評価」が低く、「今後の重要度」が高くなっている。

○　「広域観光ネットワーク」「世界に名だたる観光地づくり」については「現状評価」が低く、「国際会議等の誘致・開催」についてはやや低くなっている。

○　「道路ネットワークの充実」については「現状評価」がやや高い中、「今後の重要度」が高くなっている。

○　「新しい鉄道路線」については「現状評価」がやや高い。

世界的な交流の中で新たな活気が育まれる地域
（中部地方）



参考資料 2-(2)

訪日外国人アンケート調査

調　　査　　結　　果

Ⅰ　調査の概要

（１）調査対象　　日本に滞在後、帰路途中の外国人（国際線で出発待ちの方）

（２）調査方法　　聞き取りによるアンケート調査

（３）調査期間　　平成１７年７月２０日～２４日の５日間

（４）回収数　　英語（英米国人に限らず）で答えられた方　１００人
中国語で答えられた方　１００人
韓国語で答えられた方　１００人
合計　３００人

（５）調査主体　　国土交通省中部地方整備局

（６）調査委託機関　　株式会社ＵＦＪ総合研究所

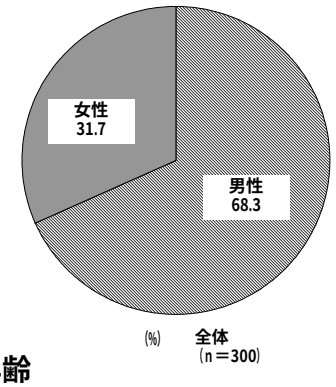
Ⅱ　調査結果

１　アンケート対象の属性

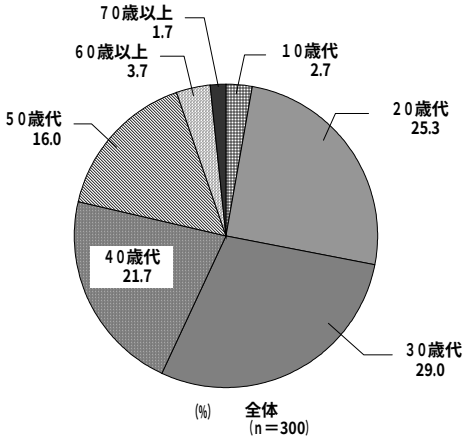
主な居住地

国名	件数	構成比率
・韓国	101	33.7%
・中国	95	31.7%
・アメリカ	72	24.0%
・台湾	8	2.7%
・カナダ	4	1.3%
・マレーシア	4	1.3%
・スペイン	2	0.7%
・ベルギー	2	0.7%
・アンティグア（カリブ海）	1	0.3%
・オーストラリア	1	0.3%
・サウジアラビア	1	0.3%
・スイス	1	0.3%
・タンザニア	1	0.3%
・デンマーク	1	0.3%
・パラオ	1	0.3%
・ブラジル	1	0.3%
・フランス	1	0.3%
・ブルガリア	1	0.3%
・ルーマニア	1	0.3%
・ロシア	1	0.3%
合計	300	100.0%

性別



年齢



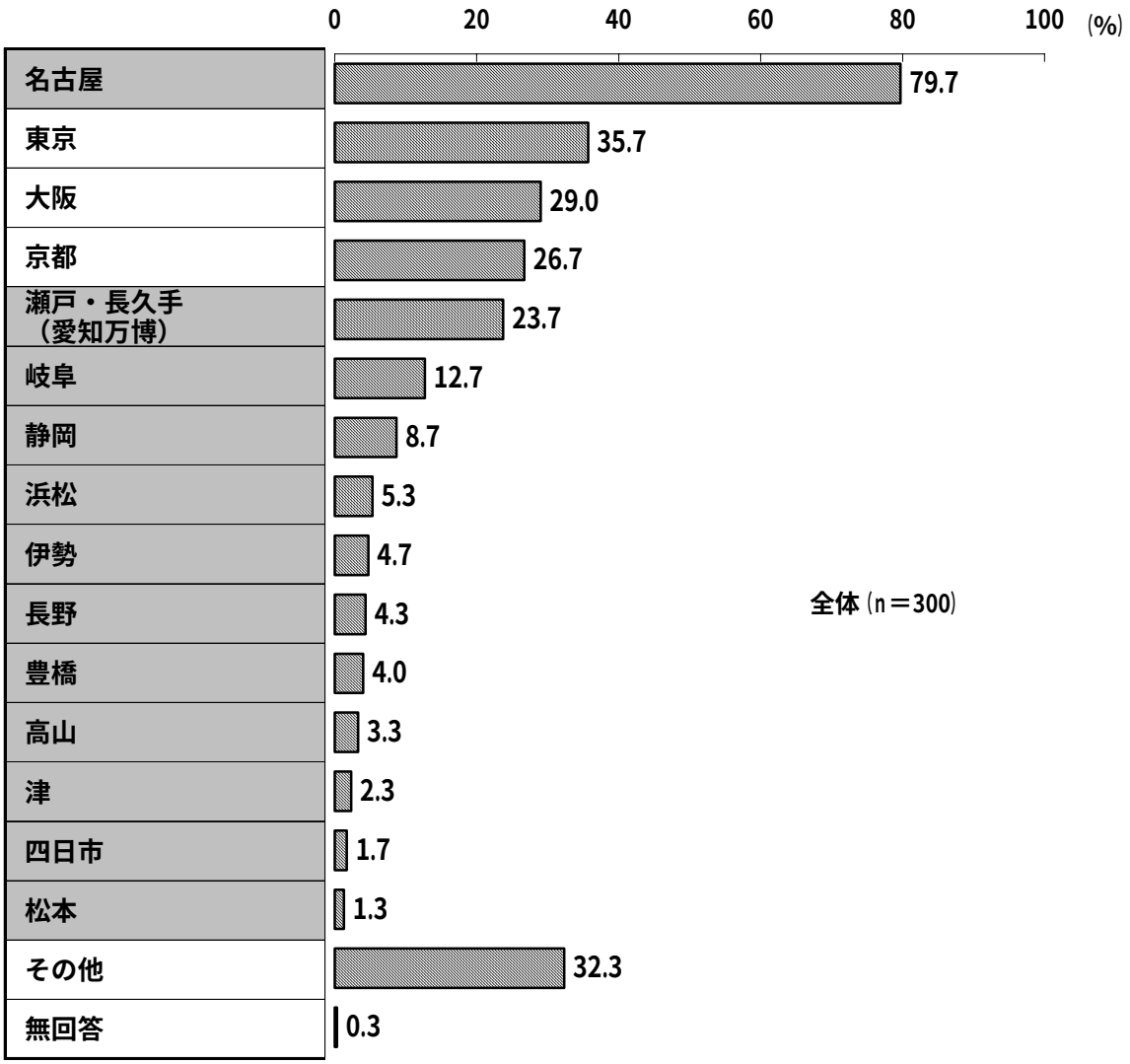
２．滞在中の訪問先とその印象について

滞在中に訪れた都市・地域

○　名古屋が 79.7%で最も高く、中部地方では瀬戸・長久手（愛知万博）が 23.7%で続いている。中部地方以外では東京が高く、大阪と京都が拮抗している。

滞在中に訪れた都市・地域（複数回答）

質問２③今回の滞在中、あなたが訪れた都市・地域は次のうちどれですか、すべてお答え下さい。（訪れた都市・地域を全て選択）



注＝網掛けは中部地方の都市・地域。

３．国際的な視点（自国との比較）からみた、中部地方の評価について

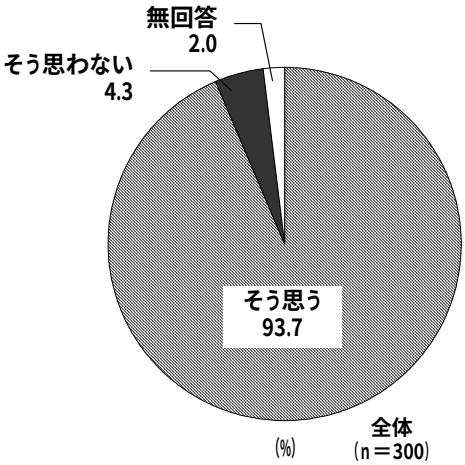
４つの視点からの評価

○　中部地方について自国との比較では「安全・安心」については約９割、「環境」と「交流」については各々約８割がよい評価を与えている。その中、「国際競争力」が優れ活気がある地域との見方については「そう思う」が約６割、「そう思わない」が約３割で評価度合いがやや低下する傾向が見られる。

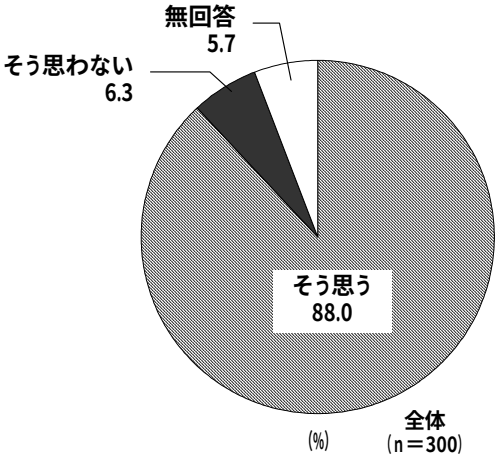
４つの視点からの評価

質問３　中部地方について、次の４つの視点から評価をしてください。
①「安全・安心」：中部地方のまちは治安の面で不安がなく、安心して過ごすことができる。
②「環境」：中部地方では自然・環境に配慮したまちづくり、地域づくりがおこなわれている。
③「国際競争力」：中部地方は経済・産業（ビジネス、生産）の拠点として活気がある地域である。
④「交流」：中部地方のまちは海外から訪れやすく、来訪者に親切なまちである。

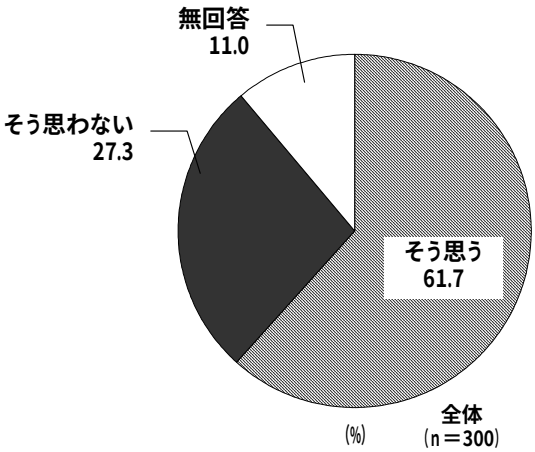
①「安全・安心」の評価



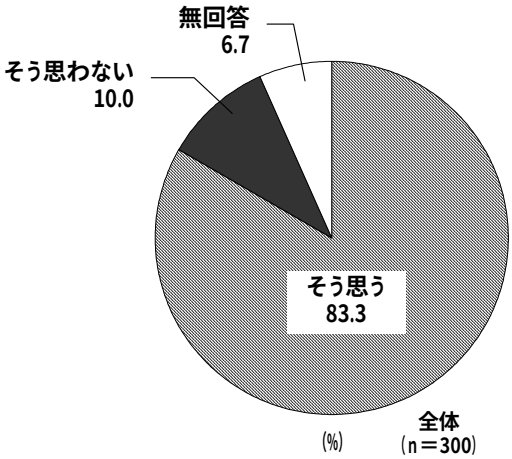
②「環境」の評価



③「国際競争力」の評価



④「交流」の評価



４．国際的視点（自国との比較）からみた社会資本（交通アクセス基盤）の評価について

社会資本（交通アクセス基盤等）の評価

○　中部国際空港は自国の空港と比較して「非常に快適であった」が 35.7%、「快適であった」が 45.7%、合わせて 81.4%が快適と捉えている。

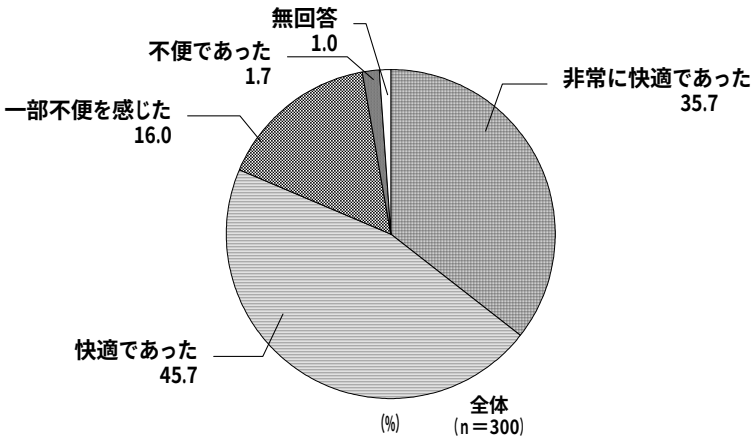
○　中部地方の公共交通機関についても「非常に快適であった」と「快適であった」で 80.4%となっている。

○　中部地方の道路の評価については、「非常に快適であった」と感じる度合いが上記の社会資本に比べやや低下傾向にあるが、「快適であった」を合わせると 81.3%となっている。

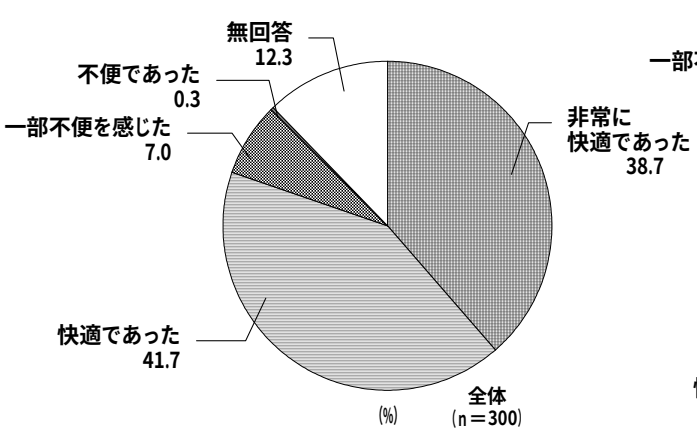
社会資本（交通アクセス基盤等）の評価

質問 4
①中部国際空港（セントレア）は自国の空港と比較して、いかがでしたか。
②中部地方の公共交通機関（鉄道・バス・地下鉄等）は自国の交通機関と比較して、いかがでしたか。
③中部地方の道路は自国の道路と比較して、いかがでしたか。（対象：バス・乗用車を利用された方）。

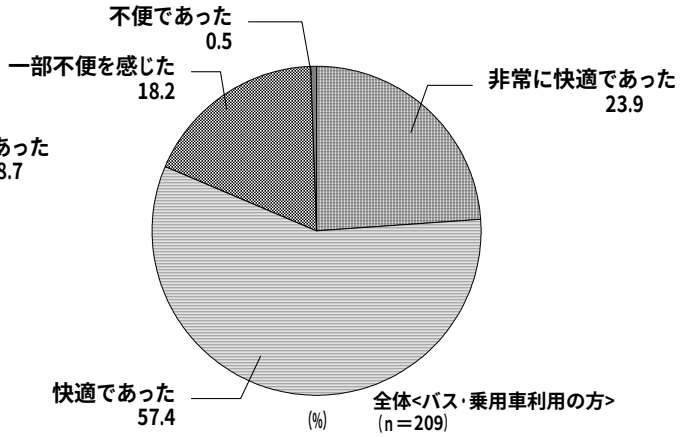
①中部国際空港（セントレア）の評価



②中部地方の公共交通機関の評価



③中部地方の道路の評価



５．今回の滞在を通した中部地方の印象と再訪意向について

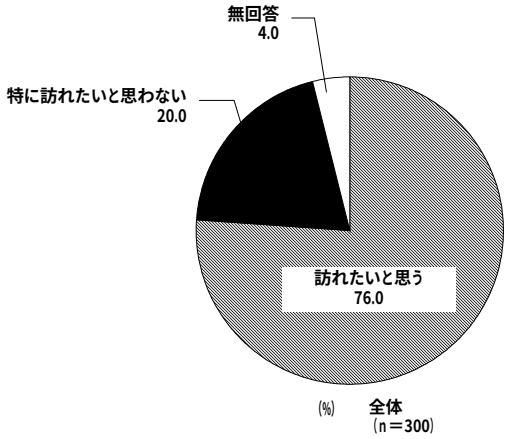
中部地方の再訪意向

○　再度「訪れたいと思う」が 76.0%、「特に訪れたいと思わない」が 20.0%となっている。

○　訪れたいと思う理由は、温泉を楽しみたい、今回訪問出来なかった観光地へ行きたい、家族旅行として、仕事を兼ねた観光などとなっている。半面、今回の滞在で観光地としての魅力を見出せなかったことが再訪問を促がさない理由となっている。

中部地方の再訪意向

②中部地方の再訪意向についてお答えください。中部地方を再度訪れたいと思いますか。



図表 4－2－2　その理由（自由回答）

再訪意向	理由
訪れたいと思う	・秋に観光に来たい
	・行きたい所が一杯ある
	・長野とか奈良に行きたい
	・上高地に行きたい
	・高山へ行きたい
	・伊勢での温泉がよかったのでまた来て見たいと思う
	・次回は真珠島にも行きたいし温泉にも行きたい
	・空気がよく、環境がいい、温泉に入りたい
	・温泉をたのしみたい
	・またゴルフと温泉に来たい
	・名古屋についてよくわからないが機会があれば来たい
	・家族連れで浜松へ行きたい
	・エキスポ以外に行くところがあれば
	・友人に会いに来たい
	・親戚も住んでいるし、他のところにも行きたい
	・会社のチャーター便が日本へ飛んでいるのでタダで乗れるので来たい
	・買物に来たい
	・環境がよく、買物にはいい。便利でサービスがよい
評価	**理由**
特に訪れたいと思わない	・観光地が少ない
	・遺跡が少ないから
	・遊ぶところが少ない
	・住むにはいいところだが、観光には向いていない
	・工業中心で観光地ではない
	・今回はエキスポがあるから寄っただけ
	・北海道など他の場所に行きたい
	・先に大阪，東京へ行きたい
	・休暇で来るなら東京や京都に行きたい
	・もっと大きいまちに行きたいから
	・名古屋は魅力が少ないため特に来たいと思わない
	・高すぎるから、休暇では来ない
	・物価が高く、食べものが合わない

参考資料 2-(3)

万博参加国ヒアリング調査

調　査　結　果

万博参加国ヒアリングにおける主要意見

【万博参加国ヒアリングの概要】

ヒアリング概要	万博公式参加国 15 ヶ国の政府幹部を対象として、海外から見た日本（中部地方）の印象、日本の役割等について、聞き取りを行った。
ヒアリング時期	７月中旬～８月初頭

【ヒアリング実施日程】

月　　日	国　　名	ヒアリング先
７月２０日（水）	ロシア連邦	グーシン・ヴラジーミル氏（副館長）
７月２１日（木）	アメリカ合衆国	ダグラス　M. ウェスト氏（政府代表代理　民間セクター）
７月２４日（日）	メキシコ合衆国	マルセロ・バルガス氏（儀典担当大使）
７月２７日（水）	オーストラリア	ポール　モロイ氏（政府代表代理）
７月２９日（金）	インド	Ｎ．Ｋ．セーガル氏（インド館館長）
７月２９日（金）	韓国	パク　ウンウ氏（朴　殷雨）（韓国館館長／政府副代表）
８月　１日（月）	ニュージーランド	フィリップ・ギブソン氏（政府代表） マイク・パティソン氏（館長）
８月　１日（月）	フィリピン	アラオディ C. ソラノ氏（館長）
８月　１日（月）	ブルネイ王国	ラティフ・アスパル氏（館長）
８月　３日（水）	シンガポール	チャンドリカ・シャンティラル氏（館長／政府代表代理）
８月　３日（水）	フランス	エリック・ベローヴル氏（副館長）
８月　４日（木）	イタリア	サルバトーレ・ダミアーニ氏（館長）
８月　４日（木）	インドネシア	サルトノ氏（館長）
８月　４日（木）	マレーシア	サラフディン・アリフイン氏（館長）
８月　５日（金）	カナダ	ノーマン・モイヤー氏（政府代表）

【ヒアリングでの主な意見】

１．日本の印象

○安全・安心

- 自然災害は予想することができない。**災害に対して安全かどうかということよりも、防災対策が整っているかどうかの方が重要**である。（フィリピン）
- スマトラ沖地震による津波は、インドネシアでは予測しておらず、国レベルでの対策が準備されていなかった。一方、**日本では防災対策が整っており、人々も災害に対する心の準備ができている**。（インドネシア）
- 災害後の復旧という点では、ロシアより**日本の方がきめ細やかな対応ができ、迅速に立ち直ることができるのでは**ないか。（ロシア）

○自然環境

- 一般的な状況として、**日本はアメリカに比べて環境に対する意識が高い**。（アメリカ）
- **日本では自然が大切にされている場所と、まったく無視されている場所の両方が混在している**。例えば、ある観光スポットは美しいのに、その駐車場のゴミ箱の周りにごみが散乱していた。（カナダ）
- **海辺や川辺はコンクリートで固められ、テトラポットにはゴミが散乱しており、非常に醜い**。（カナダ）
- 日本は歴史的な建造物の保存に力を注ぐ等、自国の文化を非常に大切にしている。ただ、残念なことは**日本人ひとりひとりが自国の歴史文化をよく知らない**ことがある。（ロシア）

○国際競争力

- **日本では労働コストが非常に高く、投資環境としては必ずしも魅力があるとはいえない**。（ロシア）
- あらゆる**コストが非常に高い**。（ニュージーランド）
- **役所的な手続きが多く、非常に煩雑である**。ＥＸＰＯの口座一つ開くにしても、大変難しかった。全ての面において、そういう風潮がある。（ニュージーランド）
- **関東・関西に比べて中部は閉鎖的**。外国人と接する機会が少ないためではないか。（韓国）
- 中部は内部でのビジネス関係が強く、外国人が入りにくい。豪州政府オフィスは現在、日本で 22 あるが、**オフィスを探すのが最も難しかったのは名古屋**だった。（オーストリア）
- 諸外国から名古屋をはじめとする中部地域への投資を促進したいと考えるなら、**当地の国際化をさらに押し進める必要がある**。（メキシコ）
- 日本には強みと弱みがある。**強みのひとつは技術**である。**日本の技術に投資し、技術提携を推進していくのは有益**だ。しかし、**物価の高さという弱みもある。**これが投資を難しくしている。（カナダ）
- 海外から投資を呼び込むには、**知識集約型の産業と労働者を育て、これをグローバルに展開していく必要がある**。（アメリカ）

○交流

- 中部地方には興味深いスポットが多々あり（中山道、犬山、岐阜、関ヶ原など）おもしろいが、**多くの人々は中部の観光地を知らない。もっとＰＲをした方がよい**。（オーストリア）
- 観光面を世界に伝えていないという問題がある。**日本への旅行は外国人旅行者にとって費用がかかるというイメージがあるが、実際は、ドイツやイギリスへ行くのと変わらない。すば**

らしい国をもっとプロモートしていくべきだと思う。（ニュージーランド）

- 問題は交通である。交通標識やロードマップの表記が不十分であり、日本ではアメリカ人は怖くて運転ができない。日本の道路交通は今以上にﾕｰｻﾞｰﾌﾚﾝﾄﾞﾘｰになる必要がある。（アメリカ）
- 日本のホテルの宿泊費はイタリアよりも高くない。本当の日本の物価水準を理解させるべきだ。誰かがオーガナイザーになって、プロモーションをすべき。（イタリア）
- 中部の課題は、移動手段が高く、交通機関が使いにくいこと。１日券などもない。（フィリピン）
- 日本の観光地といえば京都・大阪・東京だが、中部も名古屋だけでなく、静岡などまで含めて広い目で見ると魅力がある。（韓国）
- 中山道－妻籠－馬籠－奈良宿などの歴史・文化的なルートを用いて、外国人向けのハイキング・ウォーキングツアーをプロモートするとよい。（オーストリア）
- テニスやゴルフの世界的なスポーツイベントを誘致して、知名度を高めていくなどの取り組みをしてみるのも面白いのではないか。（メキシコ）

２．期待される日本の役割

- 日本は戦後世界でも最も技術が発展した国の一つ。今後も環境問題などグローバル問題の解決に果たすべき役割は大きいのではないか。（ロシア）
- 日本は外国に対し、経済面だけではなく、政治的な面や安全面においてもっとアピールをし、主張していくべき。（ニュージーランド）
- 自然災害に苦しむ国々と災害対策システムを共有すべきである。例えば、農業のための土の再生システムなど。（フィリピン）

３．中部地方の印象

○ 中部地方の交通機関について

- 電車は快適であるが、案内表示やアナウンスはもっとあった方がよい。例えば、地下鉄で通勤する時、４か国語でのアナウンスは終点の藤が丘駅にしかない。（マレーシア）
- 日本の交通機関は信頼でき、使い易く、効率的であると感じた。地図があれば、行きたい場所がすぐ分かる。しかし、日本の地下鉄などの駅にはエレベーターが不足していると思う。高齢者などは駅を出るのに長距離を歩かねばならず、苦労していると思う。（シンガポール）
- 日本の交通機関は世界的にみても、非常にハイコストである。（オーストラリア）

○ 中部地方の街ついて

- 名古屋市内には魅力的なスポットがあるのに、それぞれがバラバラで離れているのが現状。観光ルートが必要である。例えば、名古屋駅→ノリタケの森→名古屋城→堀川沿い→栄　はどうだろうか。堀川の川べりに歩道をつければ、観光ルートで素晴らしいポイントができる。（カナダ）
- 名古屋は住みやすいと思うが、名古屋での生活は、家族向けであり、シングル向けではないと思う。それは、レジャーの場所が少ないということと、バーやディスコなど、夜楽しめる場所も少ないというのが主な理由。全体的にエンターテイメントが少ない。（フランス）

○ 宿泊施設や公共サービス（英語標識・案内等）について

- 交通機関等の案内表示は全く足りていないと思う。観光客の必要とする英語情報が不足している。（ブルネイ王国）
- 宿泊施設の不足が一番大きな問題。万博開催にあわせて新たなホテルを建設していない。（韓国）

○ セントレアについて

- 旅客、交通、運送どの部門についても素晴らしい。今後にも期待できる。（アメリカ）
- 地元客が多く、常に食事するところが 20～30 分待ちで、外国人が利用しづらい。（韓国）
- 関西空港が高すぎるのに比べて、中部は大変よい。セントレアは日本の中心にあるという地理的条件も含め、非常によい。（オーストラリア）

その他のご意見

- 観光誘致には毎年続けて広告やＰＲをすべき。「VISIT JAPAN」では不十分。観光手法をもっと開発しなければならない。オーガナイザーがしっかり動くべきだ。（カナダ）
- 中部地方には、犬山（明治村）、鳥羽、高山、松本など魅力的な街がある。ＰＲ・プロモーションすべきだ。（カナダ）
- 東京の方が優れている点は、外国人が多く、より多くの人が英語を話せるところである。また、外国人向けの観光情報も、東京の方が豊富である。（インド）
- ツアーに関する情報が少ない。トヨタの半日ツアーや京都・奈良、温泉地までのツアーなどがあるとよい。（インド）
- 中部においては、「名古屋」よりも「トヨタ」の方が世界的知名度がある。名古屋市を中心とした中部地域を世界に売り込もうとするのであれば、世界に対する情報発信を強めていかねばならない。（メキシコ）

参考資料 2-(4)

有識者ヒアリング調査

調　査　結　果

【有識者アンケート・ヒアリングの概要】

調査概要	中部地方の有識者（首長・オピニオンリーダー）を対象として、国・地域づくりの今後の価値観や近年の社会資本整備に対する評価等について、ヒアリング及びアンケート調査を行った。
調査手法	首長アンケート：アンケート用紙を事前送付し、郵送（FAX）にて回収 オピニオンリーダー：アンケート用紙を事前送付し、後日回収時にヒアリングにて聞き取り
調査実施時期	８月下旬～９月下旬

アンケート結果

（首長アンケートからの主な意見）

・首都圏および近畿圏に対し、中部地方の社会資本整備は相対的に不充分。中部地方は、世界の工業首都、物流の核になりえるので、それを想定した基盤整備が必要。
・消費圏と同時に生産圏ゆえ、生活及び産業基盤の両面の投資が必要。21 世紀型快適都市像は公園都市である。そのモデル都市づくりとネットワーク化が必要。
・治水は縄張りがあってはならない。河川は一元的に国の管理とし、その後、県市に役割分担するべきである。
・都市の発展は各都市単独での発展には限界があり、今後は広域連携による広域的発展が重要である。そのための圏域の道路ネットワークの整備は必要である。
・都市における道路整備も重要な課題であるが、やはり人が住み暮らす住居地からの移動や産業物や人を運ぶ、地方と都市を結ぶ幹線道路をもっともっと整備する必要があると考えます。
・ある程度山村地域にも都市機能を分散させて、そのアクセス整備を行い、都市中心部が被災しても地方からバックアップするような中部地方全体に活性化させる方策が必要であると考える。そして平和時には都市の人々が山村に買い物やリフレッシュに出かける、スローライフの地域を作ることが求められているのではないか。
・安全で安心な地域づくりは、市民生活や社会経済活動にとって最も重要で基本的な要素であり、活力に満ちた魅力ある中部地方にするため、今後より一層災害に強く、機能的な地域となるよう社会資本整備を進めていただきたい。
・国際化の進展に伴い、国際競争力強化の礎となる中部国際空港の効率的、効果的活用に向けたアクセス道路の充実と中部地方のネットワーク強化や交通アクセスの向上による地域経済の活性化に貢献する東海環状自動車道の早期全線開通に向け、道路特定財源を一般財源化することなく、より一層ご尽力賜りたい。
・中部地方がさらに発展するためには、日本の真ん中に位置する立地条件を国内外へ PR し、さらに交流人口を増やしていくことが必要であります。また、積極的に企業誘致を行い、若者が地元企業に勤められる条件を確立し、定住人口の確保が重要と考えております。
・中部国際空港（セントレア）が開港し、名古屋港、富山港が整備され、海外からの人、物の受け入れ体制はできてきましたが、中部圏の産業、観光などがますます発展をしようとすると、社会的資本整備の根幹となる道路網整備が必要であり、さらに力を入れていただくことを希望します。
・中部圏は万博の開催や新空港の開通などの多くの大型プロジェクトにより、全国でもトップの景気がよい状況となっているが、今後恒常的に発展を望むための産業振興には、高速道路による幹線網の整備が不可欠であり、道路事業に対する集中的な公共投資を期待したい。
・産業の活性化なくして、地域の発展はない。活性化とは人が集まり、物が動くこと。安全、安心の街づくりは最大の課題。環境配慮も当然のこと。
・港湾は 10 万 t クラスの船が岸着できるようにすべき。産・官・学がテーマを絞って一体となり、取り組みをする組織づくり。

・中部地方の飛躍を期して 50～100 年先を展望するとなれば、グローバル化する経済の下で環太平洋経済圏と環日本海経済圏が密接に連携することになれば、世界経済に極めて大きなインパクトを与えるでありましょう。
・地球温暖化などにより予測しにくい異常気象が発生した場合、あらゆる自然災害に対し、不安を除去して生活が送れるようにすることが最も重要と考える。
・名古屋市から東西南北への高速道路、鉄道、空路などのパンフレットを作成し、名古屋市が日本の中心としてのイメージを固定化する。静岡東部は中部地方と言っても生活は関東圏です。ぜひ西の方から新発見できるような東京に負けない道づくりを続けてください。
・東京、大阪の「まんなか」としての位置付けに異論はないものの、他圏域との連携強化を図ると同時に広範な区域を抱える中部地方の地域間同士の連携にも視点を置き、各地域が持つ地域性や特性、役割さらには可能性を強化し、有機的に連携することが現時点では最優先すべきと考える。
・住民生活の基盤である地域づくりにおいて、防災対策を中心とした安全、安心の確保は、行政として最上位の役割と考える。
・地域の公共交通拠点としての鉄道駅および周辺地域の利便性向上（連続立体交差事業など）とバリアフリー化の推進。
・荒廃した森林の保全は、治水だけではなく水源涵養や温暖化防止など多面的な機能を有しています。安全に安心して暮らすことのできる国土を形成するためには最も重要な施策であると考えます。
・国土整備には膨大な資金と時間がかかっている。財源は限られているので集中的な投資と費用対効果が国民にわかりやすくしてほしい。大阪万博と関空事業が推進された関西がグローバル化の中で完全に浮揚できなくて、今なお沈滞ムード一色であるので中部も心配である。中部は幸いなことにトヨタが本社を名古屋市にもってきた。行政の中心は名古屋にある。名古屋市がまず横浜市と対等に勝負できるような手段や方法を推進してほしい。
・資源の少ない日本において、製造業を中心とした原材料を輸入し付加価値を持たせる産業は重要。それらの生産や輸入ルートを守っていくことは重要なテーマ。
・愛知万博の開催、セントレアの開港と東海環状自動車の建設など、さまざまな社会資本整備が進められていますが、西三河地域から高速道路へのアクセスのは充分な状況とはいえません。
・今までの首都圏・近畿圏といった二極化を脱し、「ものづくり中部」が真の経済の中心となることを目指す必要があり、東海三県といった概念ではなく、北陸を含めた中部七県（また、滋賀県を含めた）が一体となって連携し、役割分担として取り組んでいく必要がある
・環境・循環型あるいは安全な国土の形成を図る観点から、大都市周辺の田園地帯を活用した地域づくりが重要と思われる。
・国内外との交流を拡大し、観光資源の魅力を引き出すことで、他の地域とは異なる特色ある地域作りを目指す必要がある。

参考資料 2-(5)

主要企業ヒアリング調査

調　査　結　果

【主要企業アンケート・ヒアリングの概要】

調査概要	中部地方を代表する企業を対象として、国・地域づくりの今後の価値観や近年の社会資本整備に対する評価等について、ヒアリング及びアンケート調査を行った。
調査手法	アンケート用紙を事前送付。後日回収時にヒアリングにて聞き取り
調査実施時期	８月下旬～９月中旬

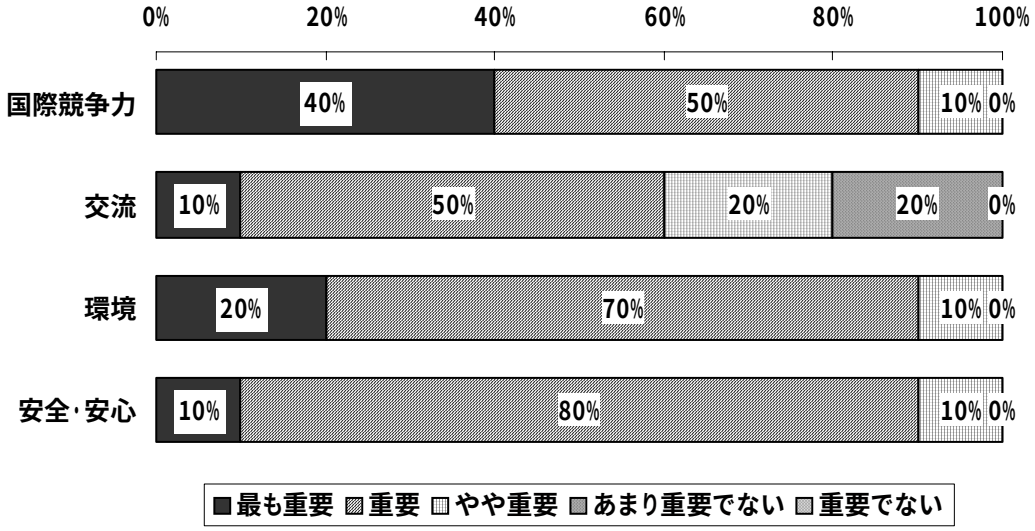
１．アンケート結果

Ⅰ　国・地域づくりの今後の価値観のあり方について

問１　中長期的な国・地域づくり方向軸の優先順位

下記に示す４つの国づくり・地域づくり方向軸について、どの軸が中長期的なものとして最も重要であると思われますか。４つの方向軸について、それぞれの重要度をお答えください。

○　最も重要との回答は、「国際競争力」について最も多く見られた。一方、あまり重要でない、重要でないとの回答は、「交流」以外では見られなかった。



＜主な意見＞

「最も重要」と思われた理由

- 国力、富がなければ国家は成り立たない！
- 今後は経済的な関係以上に、外国人を含めた人的移動・交流あるいは文化交流が、国際関係強化や地域間交流に有効であると考えるため。
- 職人が少なくなってきた。今後、2007 年問題にどう取り組んでゆくのかが肝要。
- 自動車に依存している社会において、環境負荷の小さい鉄道利用へシフトしていくことが重要である。

「あまり重要でない」「重要でない」と思われた理由

・　国内外との交流は自然に活性化することを考える（必要性が発生すれば）
・　国内外との交流拡大という考えは重要ですが、過剰と思われる設備等をつくってまで行う必要は感じない。海外も求めていないと思われる。心の交流につながるとは思えない。

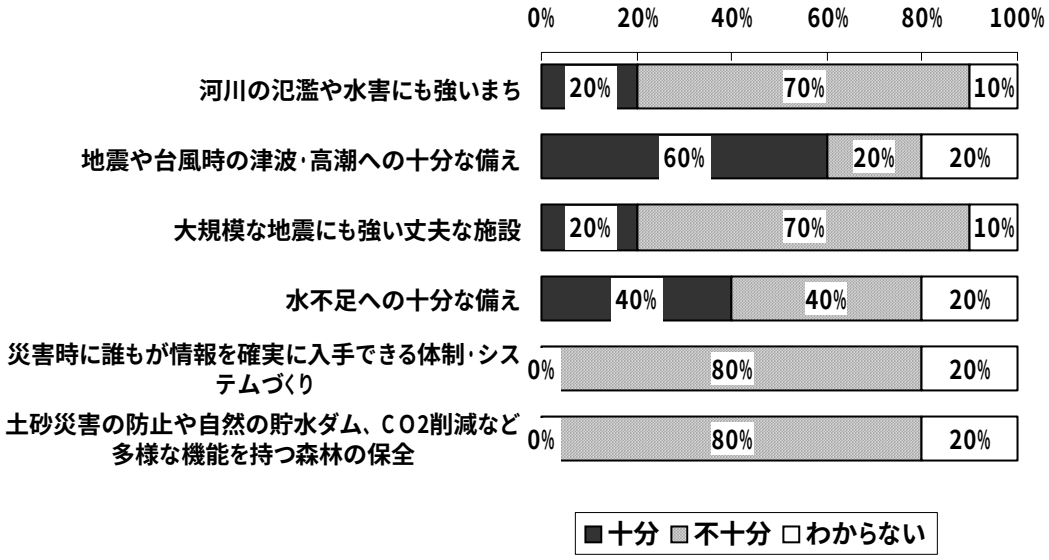
問２　今後期待される地域づくり・まちづくり施策について

下表は、問１でお尋ねした４つの方向軸について、考えられる具体的な事業・施策を表しています。これらの施策について、「中部地方の現状に対する評価」と、「中部地方の今後の地域づくりから見た重要性」を、企業のお立場からそれぞれお答えください。

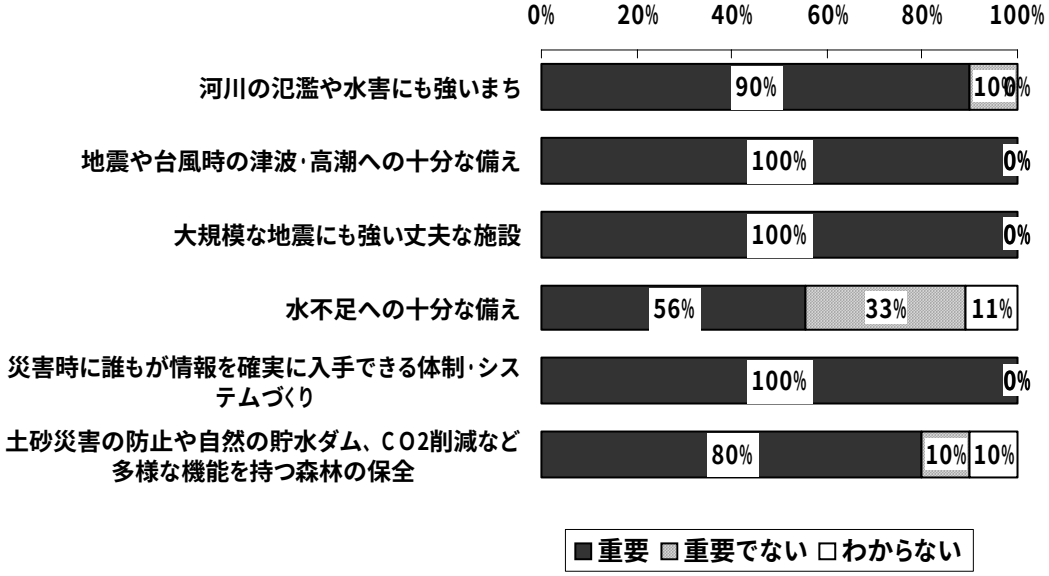
安全・安心

○　地震等への備えは「十分」との回答が 6 割を占める。一方、災害時の情報入手体制・システムや防災面から見た森林保全については、8 割が「不十分」と回答した。

■中部地方の現状に対する評価



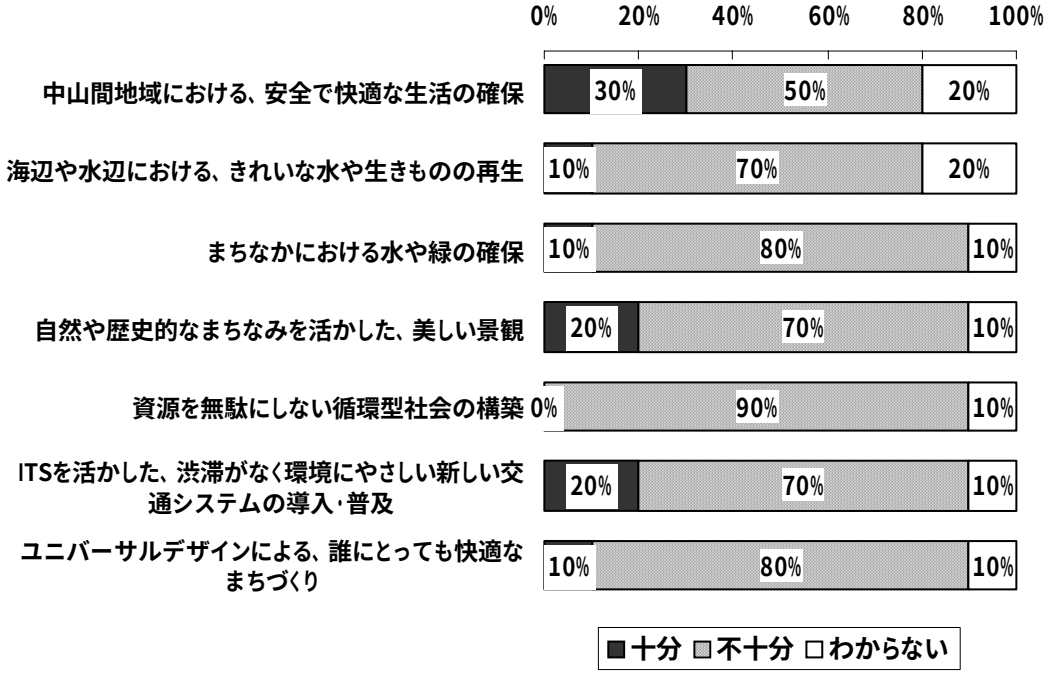
■中部地方の今後の地域づくりから見た重要性



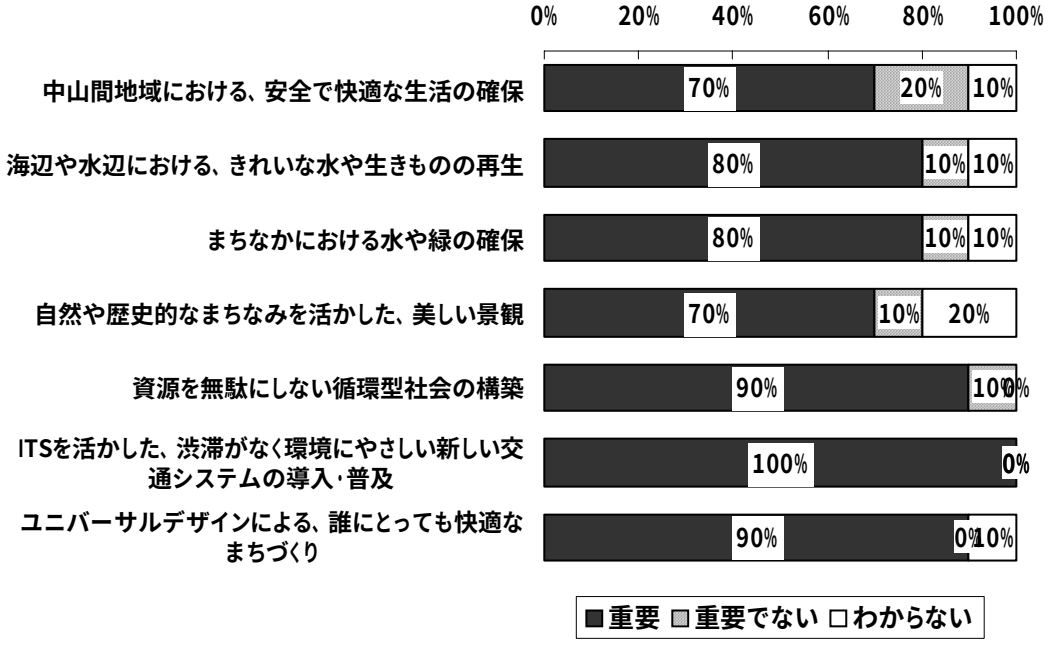
環境

○　現状で、循環型社会の構築について「十分」とする回答は見られなかった。
○　新交通システムの導入・普及については、全員が「重要」と回答した。循環型社会の構築、ユニバーサルデザインのまちづくりについては、9 割が「重要」と回答した。

■中部地方の現状に対する評価



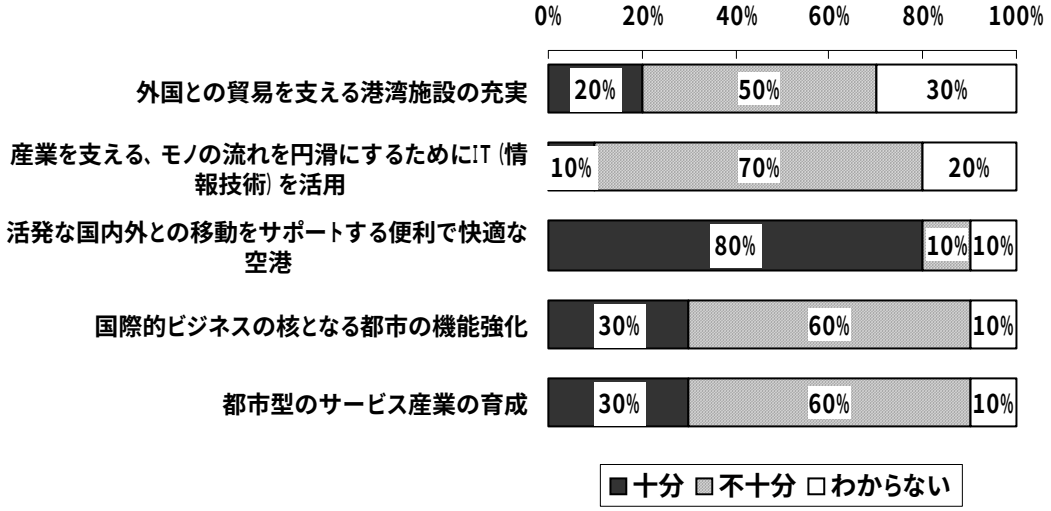
■中部地方の今後の地域づくりから見た重要性



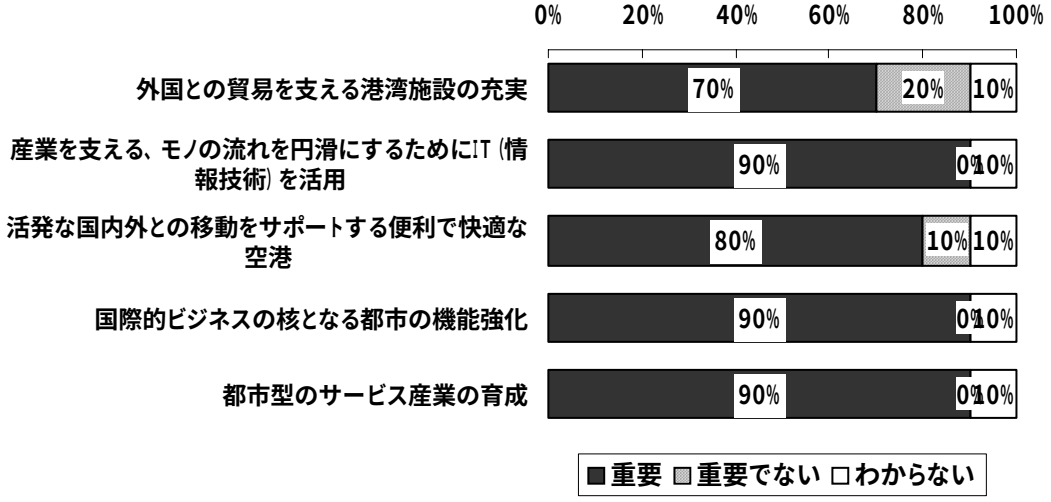
国際競争力

○　空港については８割が「十分」と回答しており、現状に対する評価は高い。
○　港湾施設の充実については７割が「重要」と回答しており、今後の整備に対する期待が高い。

■中部地方の現状に対する評価



■中部地方の今後の地域づくりから見た重要性

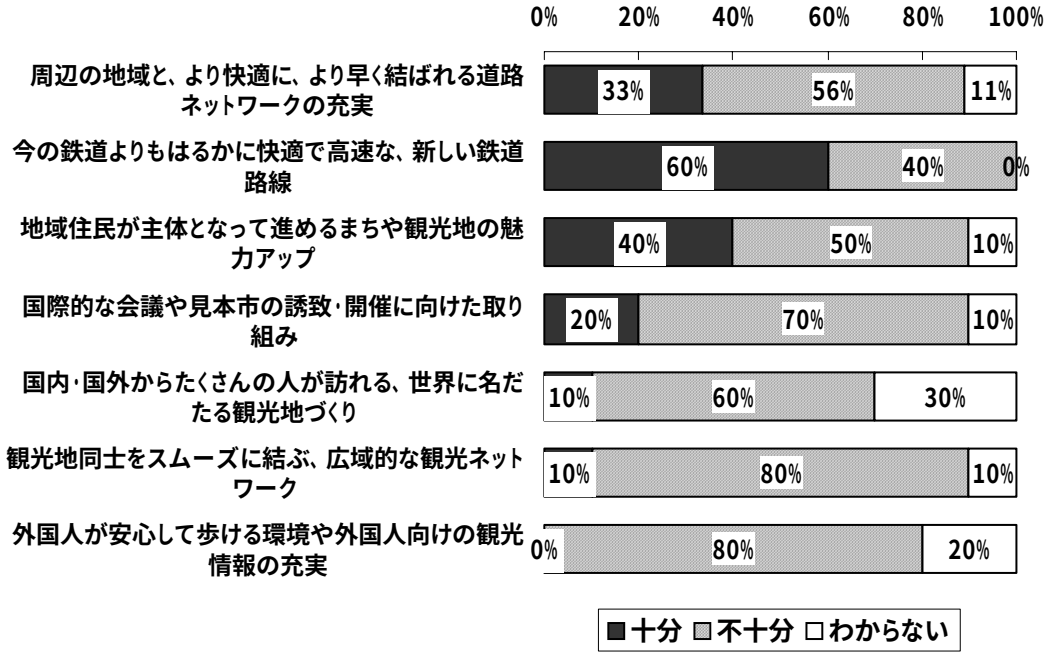


交流

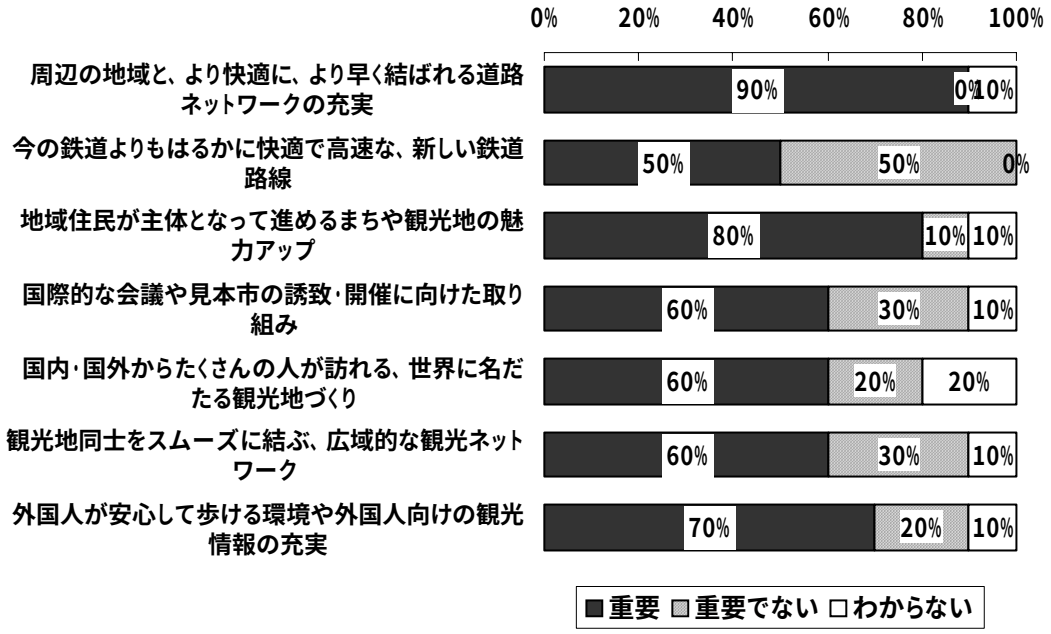
○　鉄道については「十分」との回答が 6 割を占める一方、外国人向けの観光情報については「不十分」との回答が 8 割を占める。

○　道路ネットワークの充実は 9 割が「重要」と回答した。

■中部地方の現状に対する評価



■中部地方の今後の地域づくりから見た重要性



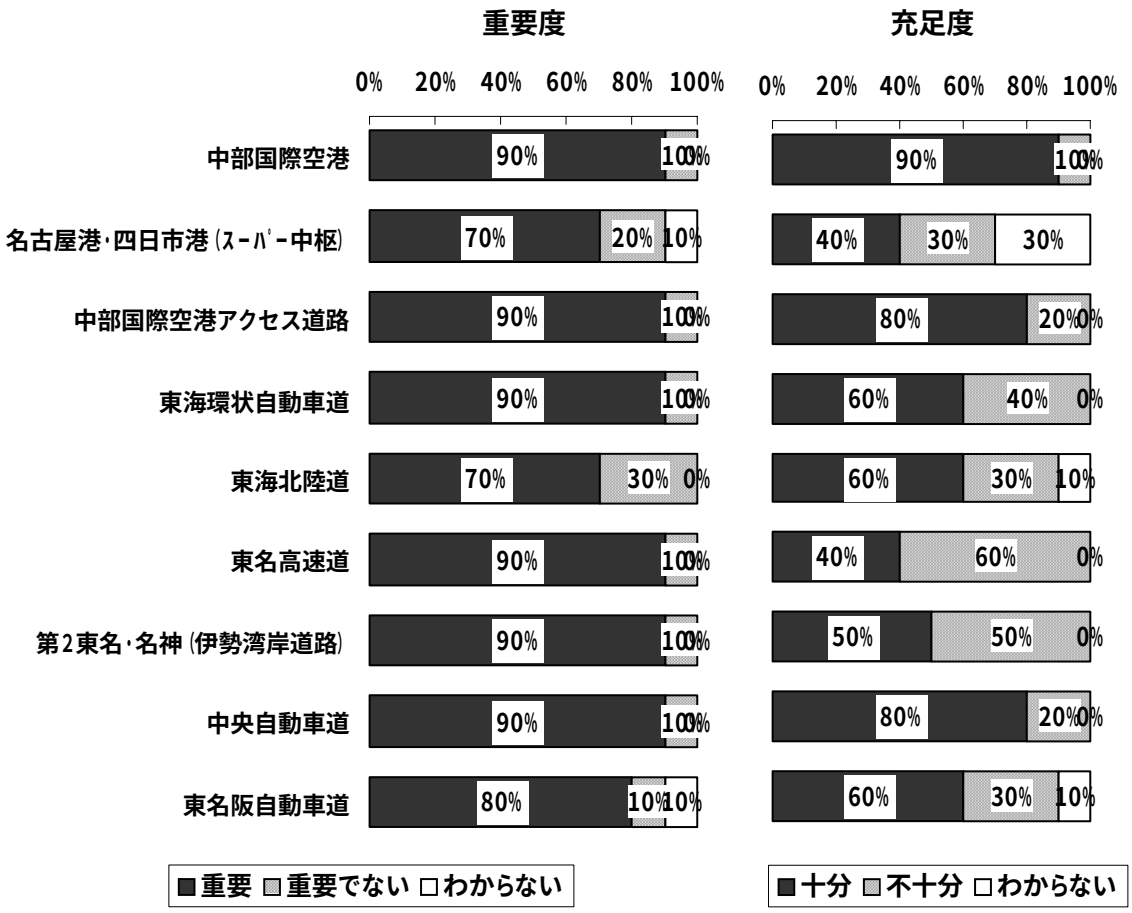
Ⅱ　近年整備した社会資本に対する評価

問３　近年の社会資本整備に対する評価と意見・要望

愛・地球博等のために、中部地方において近年整備を行った下記の社会資本等に関して、企業のお立場から見た重要度と現状に対する充足感をお尋ねします。以下の９つの社会資本について、評価として当てはまるものを、重要度、充足度それぞれで１つずつ選択してください。

○　中部国際空港、空港アクセス道路、東海環状自動車道路、東名高速道、第 2 東名・名神、中央自動車道については、9 割が「重要」と回答している。

○　中部国際空港、空港アクセス道路、中央自動車道路は 8 割以上が「十分」と回答している。名古屋港・四日市港、東名高速道路は「十分」との回答が 4 割に留まっている。



＜近年整備した社会資本に対する主な意見＞

中部国際空港

・ 滑走路の複線化。
・ 滑走路の早期充実。

名古屋港･四日市港（ｽｰﾊﾟｰ中枢）

・ 施設の問題よりも、船舶ビジネスを活性化させることが重要です。
・ 港湾へのアクセスの社会資本整備。

中部国際空港アクセス道路

・ 夜の空港から名古屋方面の ETC がよく故障する。ETC を増やす！
・ 名古屋高速道路の日中の渋滞。
・ 有料道路の無料化、ETC の増設（知多半島道路）。

東海環状自動車道

・ 整備を急ぐべき。地域の活性化につながる。
・ 西半分は不要では？土岐美濃間の複線化を。

東海北陸道

・ 早急な全線開通。
・ 全線の複線化。

東名高速道

・ 混雑の解消。（季節のピーク）
・ 安全性アップ。（SA の再検討、道の駅などの充実、渋滞ポイントの複々線化等）
・ 3 車線化。

第２東名・名神（伊勢湾岸道路）

・ 亀山までの延長を急いでほしい。
・ 早期開通。

中央自動車道

・ 夏場の混雑の解消。特に長野エリア。
・ 安全性アップ。（SA の再検討、道の駅などの充実、渋滞ポイントの複々線化等）

東名阪自動車道

・ 事故多発エリアの改造が必要。
・ 第 2 名神との兼ね合いで重要度が変わる。
・ 東名阪～西名阪のバイパスの高速道路化

III　今後の国・地域づくりや具体的な整備要望事項に関する自由意見

問４　自由意見

- 国力、環境、安全をバランスさせて社会資本整備をさせていくことが大事です。
- 特に環境、安全はその行為がビジネスに連係して企業も資本を投入しやすい状況にするべきです。
- そのための社会資本整備が必要なら、今までのような建築物ではなく、市民を巻き込んだ情報交換、NPO 活用などソフト面での充実が不可欠です。
- 知事、政府、市町村は、強いリーダーシップ、情報発信、そして、市民の意識をモチベートさせるべきです。
- 製造業、輸出入関連産業を中心に、中部地方は産業面での成長性は高い。
- あわせて、中部国際空港の開港で国内各拠点（都市）との輸送・移動手段が格段によくなり、海外との人の移動や輸送・貨物等の物流面も着実に拡大することが見込まれる。
- 今後、中部地方のさらなる活性化を図るためには、国内外との人的交流が盛んになるような施策の展開とそれをより円滑に進めるための社会資本の整備であろう。
- 人的交流の拡大のためには、観光客の増加とそのための PR、観光地の整備、アクセスのための道路整備が重要となろうし、大型コンベンションの開催、大型文化交流の機会の拡大とそのための機会創出・誘致や恒久施設の建設・整備が不可欠であろう。
- 成長型社会の終焉。安定成長（継続型）社会へシフトチェンジそれに対応した施策。
- むだな公共工事の再検討、中止（例：長良川河口堰、徳山ダムなどは本当に必要だったのか？）
- 地元の意見（自治体、議会や議員でなく住民）を取り入れた環境整備
- 環境に充分配慮した社会資本整備。
- 社会整備を進めるにあたって充分な理解を得るための PR 活動
- その時代の状況に応じ、計画変更に柔軟に対応できる組織作り。